

令和7年度 普天間飛行場跡地利用推進会議  
— 議事録 —

日 時：令和8（2026）年2月12日（木）10：00～12：00

場 所：沖縄コンベンションセンター B会議棟 B5・B6・B7会議室

出席者：

西田睦会長	田名毅委員※
池田孝之副会長	嘉陽孝治委員
岸井隆幸委員	具志堅莊一委員代理（伊佐強委員の代理）
宮城邦治委員	天久静子委員
池田榮史委員	宮本信弘委員
浜田京介委員	仲村春松委員
金城克也委員	古波藏晃委員
米須義明委員	

（オブザーバー）内閣府政策統括官（沖縄政策担当）付参事官（政策調整担当）付企画官 佐藤茂宗  
沖縄総合事務局総務部跡地利用対策課長 池村幸介

※Web会議による参加

欠席者：名嘉座元一委員、宮城茂委員、天久進委員、長堂昌太郎委員、具志堅幸一委員、照屋文宏委員、大川正彦委員

（1）跡地利用計画策定までの流れと本年度の取組

- ・事務局より、跡地利用計画策定までの流れと本年度の取組について、資料1、資料2、資料3を用いて説明を行った。

宮城委員 中間取りまとめ（第2回）を策定後に検討した内容について、検討委員会等で議論した内容を踏まえ、令和8年度に「全体計画の取りまとめの骨子案」の作成、令和9年度に「全体計画の取りまとめ」を策定し、その後土地利用の計画案等が作成されるという流れで進み、計画がブラッシュアップしていくという理解でよいか。

事務局 認識のとおりである。

宮城委員 承知した。本推進会議を含め、検討している内容が県民や市民にどのように発信しているかが分かりづらい。例えば、中間取りまとめ（第2回）を取りまとめた際にはどのように市民に情報共有したのか。今後、どのような対応をする予定か教えてほしい。

事務局 推進会議の内容についてはHPで公開し、市が行っている事業の中で地権者や市民の皆様へパンフレット等で周知を行っている。ただし、県民等広く周知が行き届いているかという点についてはまだ課題があると認識している。

宮城委員 老人会や自治会の集まりの雑談の中で普天間飛行場跡地の計画の検討や取組について、知らない人が多い。市民が手に取りやすい形の周知方法を行うとよい。

## (2) 海外先進事例調査、情報発信等の取組

- ・事務局より、海外先進事例調査、情報発信等の取組について、資料4、資料5を用いて説明を行った。

宮本委員 普天間飛行場の規模について教えてほしい。

事務局 476ha である。

宮本委員 海外事例調査の視察先の地区の規模との差が分かりにくいいため教えてほしい。

事務局 資料4の2頁目の規模を参照しながら補足説明。

宮本委員 普天間飛行場の規模が476haと言われても規模感がつかみにくい。学生への情報発信の取組だけでなく、市民の啓発にも取り組んでほしい。例えば、老人会は22のクラブがあるため、行政の方が来訪し順次、夢のある計画を説明する等の取組が考えられる。

事務局 本日説明した取組のほかに地権者勉強会を実施しており、各公民館を回り、中間取りまとめ(第2回)の内容等について説明している。また、年1回、取組状況をまとめた「まち未来だより」を作成し市報に折り込み全市民に配布をしている。また各種団体の代表者の方を集めて、意見交換会の開催等を実施し情報発信の取組を行っている。引き続き全体計画の取りまとめに向けて周知方法を検討していきたい。

宮本委員 地下水の活用について検討状況を教えてほしい。

事務局 今年度、普天間飛行場周辺の湧き水調査を行っており、次年度以降に水の流れ等を検討し、将来の土地利用の検討に活用する予定である。まちづくりの方向性としては、地下水や湧水の保全是行うことを目指している。

## ○意見交換

- ・これまでの事務局の説明内容を踏まえ、各委員より意見を伺った。

宮城委員 普天間飛行場の地層には琉球石灰岩層があるため、台地特性の正確な情報収集が必要である。正確な調査を行い、どのような建築物や緑地が配置可能か検討してほしい。

池田榮史委員 文化財については基地に入れないため、どのように活用していくか計画を深化することができない状況にある。基地内のみどりや文化財、環境に関する調査ができるようにしてもらいたい。基礎情報を集める作業を進めなければ上滑りな状態が続いてしまう。

事務局 また、宜野湾市がどのように変わっているか、人口や世帯数等の動態を把握し計画に反映する必要がある。

事務局 立入調査については課題と認識している。道路線形等を計画する際に歴史文化財の調査が重要となるため、米軍側には引き続き粘り強く立入調査を求めていく。

事務局 市の人口は10万人を超えてきており、基地周辺は密集市街地化している状況にある。また、西普天間住宅地区が返還され開発を進めている。このようなまちの変化を捉え令和9年度の全体計画取りまとめを行う。

池田榮史委員 西普天間住宅地区の開発により、周辺道路は渋滞などが発生してい

るため、周辺開発によりどのようなことが起こっているのかについてもしっかりと調査し、計画に反映してほしい。また、インダストリアルコリドー地区についても計画が進んでいるため併せて確認するとよい。

**浜田委員**

高校生との情報発信の取組の中で活発な意見が集まり、中には滑走路を一部残す等の面白い意見があった。返還されると空の利用も可能となるため、西海岸地域のコンベンションリゾート形成と連携した空の活用も想定される。将来の希望の光をたくさん感じた。今後も協力させていただく。

**金城委員**

普天間飛行場は476haと広大な敷地であり、海拔も高い位置にあるため、安全なまちづくりが可能な立地である。また、空と海の玄関口（那覇空港、那覇港、安謝港等）と近接している。そして基地内は自然が豊かな緑地が残っており、ポテンシャルの高い敷地である。多様な人の意見を踏まえながら、日本を代表するまちづくりの実現に向けて取り組んでほしい。

**米須委員**

商工会連合会は、商工会議所へ移行する。目的としては、中小規模事業者から大規模事業者である県内外の企業を誘致したいという意向があるためである。そのためには、商業地域や工業地域のインフラ整備が重要になる。宜野湾市は沖縄の中心になり得る地域であるため、みどりだけでなく商工業の発展を見据えた計画づくりを進めてほしい。

**仲村委員**

情報発信の取組に関する議論があったが、地主会では、各字から16名の委員代表と相談役5～6名が集まり、跡地の計画の進捗報告を受けている。また、現在若手の会については会則について検討している。普天間飛行場跡地に関する活動をしていただき感謝申し上げます。

普天間飛行場の開発に当たり、周辺自治体（浦添市や中城村、北中城村、北谷町、沖縄市など）との結びつきが大切だと思う。公共交通基盤との連携やネットワークの検討が行われているため、引き続き検討を進めていただきたい。地主会としては検討内容を理解し、メンバーが理解・把握できるように努めていく。

**古波藏委員**

跡地利用をどのように進めるのか興味があり、期待している。県市が先行取得を進めており、地主会は県市と一緒に地主へ説明を行っている。引き続き、地主の方向けの跡地利用についても考えてほしい。

開発に当たっては、用途制限がかかると思うが、跡地を有効利用するためには高度利用等が必要だと思うため併せて検討してほしい。

**田名委員**

医療界として、経済界との対応を重視している。日本は、諸外国から検診システムを評価されているため、医療ツーリズムでの健康診断等を産業の一つとして位置づけできないかと考えている。沖縄健康医療拠点である琉球大学病院と連携しながら、普天間飛行場跡地が受け皿になるとよいと考えている。

薬学部設置のシンポジウムに参加した際に、山口県内には製薬企業が多く立地しており、人材輩出するためにも薬学部設置が必要とされていた。沖縄県には沖縄科学技術大学院大学（OIST）に高いレベ

ルの研究施設があるため、琉球大学と連携し、製薬に係る企業誘致のために、薬品製造を産業候補のひとつとして検討してほしい。

宮本委員

普天間飛行場の返還が伸びることが懸念されるが、できるだけ早めに返還できなるよう充実した計画づくりを進めてほしい。仲村委員が発言したとおり、モノレールの延伸の検討についても具体化を進めてほしい。

天久委員

普天間飛行場近くの上大謝名に住んでいる。普天間飛行場が返還された際には交通機関を整備し、みどりの中のまちづくりを実現し騒がしくないまちになってほしい。

具志堅委員代理

推進会議は初めての参加となるが、宜野湾市役所の建替え構想について調べた際に中間取りまとめのパンフレットについて見たことがあり、普天間飛行場跡地の検討については知っていた。嘉数高台公園から普天間飛行場を見渡した際には、起伏がなく公園には最適な立地と感じた。琉球大学病院が移転し交流施設が周辺に整備され、市役所の建替えが検討されているため、このような周辺環境の変化も併せて一緒に考えていってほしい。

現時点では様々な意見を出し合う必要があると思う。

また、インフラ整備は重要だと思う。交通渋滞の緩和を期待する。

嘉陽委員

跡地の利用については、ソフトな取組が見えにくいと感じた。だれにでもやさしいまちづくりを進めてほしい。また、具体的な将来像が見えず、みどりの中のまちづくりが具体的にイメージしづらい。令和9年度に全体計画の取りまとめの策定に向けて、市民に分かりやすい内容としてほしい。例えば、ポスターでの周知やそのポスターの時系列で更新等が周知の取組の一つとしてあると思う。

岸井委員

県市及び国の方が参加されているため、全体計画の取りまとめを策定し、具体的なイメージを固めていく上で早期に決めていただきたいことをお伝えする。

1つ目としては、基幹交通の計画について早期に決めてほしい。中部縦貫道路等が示されているものの、線形など確定した内容ではない。道路計画を決めなければ、今後のみどりや跡地利用の計画検討に大きく関わるため早期決定が必要である。

2つ目として、普天間飛行場内には、2,700mの滑走路があるため、滑走路はどのように作られたのか、現在地下はどのような状況か等については調査が必要である。あらかじめ調査・把握し、掘り返す際にどのようなことが想定されるのか明確にする必要がある。

3つ目として、全体のスケジュール感を持っておくことである。4,000人以上の地権者の合意形成や交通機関の整備に時間を要するため、全体のスケジュール感を持っておくことで、周辺の道路網との関係性から一部先行的に開発できるエリア等が見え、もう一段先の検討に進むことができる。広大な土地であるため、段階的な開発が想定されるため周辺の市街地とどのように連携するのかについても検討を進める必要がある。

また、県市が取り組んでいる先行取得も重要な内容である。企業誘致を行うためにはある程度土地の原資を持っておく必要があり、みど

りを確保するためにも土地が必要となる。

池田孝之委員

検討の深化をする検討会議とは違い、推進会議の目的は、現時点でまとまっている内容を推進することが主な目的である。計画の中身が分からないという意見や跡地への期待することに関する意見があるが、そのような意見は会議の趣旨と少しずれている。そのような意見があってもよいが、事務局からの報告内容に対してどのように推進するかを意見する場である。

現計画は構想であるため、考え方を整理している段階である。今後、更に計画を掘り下げていくためには、現在整理している考え方がどのような効果を生むのか（人口規模、就業者数等）を算出する必要がある。この効果を出すことで、今後の沖縄の重要な基盤である鉄軌道の利用者がどれくらい発生するか等が算出することが可能となる。

委員の方には、推進会議で聞いた内容の中で、良い点・魅力的だと感じた点などを周囲に広め、推進して行ってほしい。

### ○オブザーバーからのコメント

佐藤企画官

跡地利用には沖縄の未来がつまっている。まちの導入機能のイメージが検討の中で考えられているが、ゾーニングに落とし込まなければ更なる具体的なことが見えてこないと思う。ゾーニングを行う上では、根拠となる考え方や数値、地盤調査、基幹交通等について決めていく必要があると感じた。引き続き県市の取組を支援していく。

池村課長

次年度以降も専門家派遣等を通じて引き続き支援していく。

### ○会長からのコメント

西田会長

推進会議ということで、細かい技術的な議論をする場ではないが、皆さんの声を聞いて検討会議の場で議論いただけるものと思っている。今回、検討の不足点が明らかになったことはよかった。良い意味で推進できればと思う。推進の観点からもやるべきことはある。息の長い事業となるが、頑張っていきたい。

閉会

以 上